

## つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり(3年次)

～子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～

### 国語科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

国語科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは、子どもが、友達の活動・表現を見てメタ認知能力を高めていくことのできる授業だと考える。そして、子どもが学習の目的・方法が分かって、よりよいものにしたいと思っている姿を「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもの姿」と捉える。「もっと読みたい」「調べたい」「劇で表現してみたい」等の「こうなりたい」という気持ちが増えることである。そのためには、表現するのは当たり前という環境を整えておく必要がある。学習したことをアウトプットすることを前提として学んでいく中で、自分自身の変化を実感しながら、次はもっとこうしたいという思いをもつ子どもが育つ授業である。新しい学びと出会うワクワクドキドキ感を大切に、既習を活用させたり友達を参考にさせたりしながらねらいへと向かわせる学習を展開したい。

#### 1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

○ゴールイメージをもたせる。

導入において、前時で示したモデル(教師が作成した乗り物カード)を提示して単元のゴールを再確認させる。そして、5枚のカードをどう書くのかを教科書を使って確かめるという本時の位置づけを示す。

○立場を決めさせ、課題解決への意欲を高める。

「課題を解決したい」「早く読んでみたい」という思いをもたせて教材文を読ませたい。また、子どもの思いをそろえたうえで、教材文に向かわせないと、読んだ感想は散漫になる恐れがある。そのため、本時ではまず、教材の題名から、「いろいろな」という言葉が複数を表す言葉であると共通理解を図る。そして、「船がいくつ出てくるかな」と投げかけ、数を予想させたいうえで、教材文を読んでいく。これにより、子どもは数を確認するという目的意識をもって教材文を読むことができるだろう。

○写真を掲示する。

教科書の写真や挿絵、カードを並べ替えさせたり、選択させたりすることで、自分の考えをもちやすくなると考える。船の写真を順不同に提示することで、子どもは「順番が違う」「並べ替えたい」という思いをもち、順序に着目することができるだろう。さらに、教材には出てこない船の写真も含ませることで、子どもに問いが生まれ課題解決への意欲へとつながることを期待する。

○単元を貫く発問。

乗り物カードを作るゴールに向かっている学びの状況を自覚させるために「できそう?」「できそうになってる?」と子どもたちに問い続ける。本時の学習を通して、カード作りのヒントになったと自己の学びの変容に気付かせたい。「前より少しできそうかも」という思いをもたせ、次時に臨ませる。

## 2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

○問い返す。

意見に対して、「どうしてそう考えたの？」と問い返すだけでなく、意見を聞いている子どもにも「どう？」と声をかける。友達の話の聞いている子どもの反応を見取り、拍手や「なるほど」と反応している姿を評価する。さらに、「拍手の理由を教えて」や「どんなところが、なるほどと思った？」等行為をふり返らせ、言語化させる。友達とかかわりながら学習しているという学び方を称賛し、継続していけるようにしたい。

○学んだこと・友達から見付けたことを表現させる。(ふり返り)

1年生の子どもにとって、まずは友達の意見に関わろうとしている姿を肯定的に評価していくことが大切であると考え。授業の最後に、自分と同じ考えだった友達、自分にはない考えをもっていた友達、がんばっていた友達等の名前を書かせる。そして、「〇〇さんと～が同じだった」という子どもには、友達と自分の考えを比べて聞くことができたことを評価する。「〇〇さんの考えがびっくりした」等の子どもへは、自分では思いつかなかった考えを聞くことができ、自分自身の学びへつながったことを自覚させる。「〇〇さんがたくさん発表していた」という子どもへは、友達のよさに気付いていることを評価する。すごいと思える友達を想起させることで、次は自分自身も頑張りたいという思いへつなげたい。

## 第1学年C組国語科学習指導案

令和3年10月25日月曜日 第5校時

高知大学教育学部附属小学校

1年C組 児童34名

場所 1年C組教室

指導者 岡林 千裕

### 学習指導要領における指導事項等

#### 【指導事項】

- ・ 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 [知識及び技能(2)ア]
  - ・ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えること。 [C 読むこと(1)ア]
  - ・ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 [C 読むこと(1)ウ]
  - ・ 語と語や文と文との続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 [B 書くこと(1)ウ]
- #### 【言語活動】
- ・ 学校図書館などを利用し, 図鑑を読み, 分かったことなどを説明する活動。 [C 読むこと(2)ウ]

### 1. 単元名

のりもののことをしらべよう「いろいろなふね」

### 2. 単元について

#### ○単元観

本単元における重点指導事項は, 学習指導要領における〔思考力, 判断力, 表現力等〕の「C 読むこと(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」である。また, [知識及び技能]の(2)ア「共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。」も必要となってくる。本単元は, 「情報活用」の系統として位置付けられており, 三学期に取り扱う「子どもをまもるどうぶつたち」を学習する際にも活用できる。

そこで, 本単元では, 乗り物について調べたことをカードにまとめる言語活動を設定した。乗り物について書かれた図鑑を読み, 調べたことをもとにして「1Cのりものずかん」を作るという活動である。この活動に取り組むことで, カードにまとめるという目的意識をもって文章を読み, 必要な言葉や文を見つけて短くまとめようとする姿が期待できる。身近な乗り物をテーマにした子ども向けの図鑑を何種類か並行読書させ, さまざまな情報に触れられる環境を整えておく。

#### ○児童観

児童はこれまでに「どうやってみをまもるのかな」(6月)において, 動物ごとに大事な言葉や文を読み取る学習を行った。事柄の順序に気を付けて「問い」と「答え」を考えながら読むことができるようになってきた。また, 読書が好きな児童が多く, 毎日図書館へ本の借り換えに行き, 読書の時間や休み時間などに楽しんで読書する姿が見られる。しかし, 本文中の問いに沿って答えとなる文を抜き出すことに苦勞する児童や, 読書中は写真や挿絵だけを見て文字を読んでいない児童もみられる。

#### ○指導観

単元の導入では, 一学期の「ことば集め」を想起させ, 知っている乗り物の名前を挙げさせる。そして, 指導者が調べてカードにまとめたものをモデルとして提示し, 図鑑を読んで分かったことをカード

にまとめるという学習の見通しをもたせる。第二次では教材文を読み、まず、文章の内容の大体と「始め」「中」「終わり」という説明文の文章構成をつかませる。次に、4つの船について、同じ観点で書かれていることに気付かせ、調べるときに必要な観点を押さえさせるとともに、読み取る方法やカードにまとめる方法を理解させる。そして、並行読書してきた本や図鑑などから好きな乗り物について調べたことをカードにまとめさせる。最後にカードを紹介し合い、感想を交流させる。第三次では、単元の学習を振り返らせ、書かれていることを事柄ごとに読み取ってカードにまとめたことを確かめさせる。

本時は、単元の2時間目で、教材文を読んで、内容の大体を読み取る時間である。まず、乗り物図鑑を作るために教材文を読んでカードを書く練習をして、他の乗り物カードを作るときに生かすという本時の位置付けを確認させる。次に、題名を板書し、「いろいろなってどういうこと？」と問う。すると、「たくさん船があること」と答えるだろう。これにより、「いろいろな」という言葉に向き合わせ、種類が豊富であるという共通認識をもたせることができるだろう。そこで、「ひとつではない」という発言から、「いくつ出てくるかな？」と投げかけ、数を数えながら教師の範読を聞かせる。全文を読み終えたところで、4種類の船について説明していることを確認し、船の写真をばらばらに提示する。ここでは、「順番が違う」と反応すると考えられるため、教科書に出てくる順番に並べ替えさせる。写真の並べ替えが済んだら、船の名前を書いた短冊を見せ、「どの船かな？」と問う。答えさせていく中で、「どうしてこの写真が……だと思ったの？」と問い、叙述に根拠を見つけさせ、ペアで確認させる。そして、写真と文章を対応させながら根拠を発表させる。発表を聞いている児童には、自分の考えと同じか違うかを聞き比べさせ、話し合いにおいて「〇〇さんと同じで(違って)」と発言する児童を価値付けたい。そして、段落を確かめ、文章構成を確認させる。これにより、①段落と⑭段落には船の説明が書かれていないことに気付かせたい。そこから、「始め」「中」「終わり」の大きく3つのまとまりと、中の例が4つあることを捉えさせる。最後に、4つの船のうち、一番いいなと思った船とその理由を、叙述をもとに本時の振り返りとして書かせる。ここでは、友達と選んだ船が同じかどうか、同じでも理由が違う等自分の考えと比べながら友達の考えに触れさせたい。

### 3. 単元の目標

(1) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

(2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア

(3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

(4) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

(5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

### 4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】	① 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 【C(1)ア】	① これまでの学習や経験で気付いたことやできるようになったことを生かして見通しをもち、積極的に、文章の

	<p>② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【C(1)ウ】</p> <p>③ 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように、書き表し方を工夫している。【B(1)ウ】</p>	<p>中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことをまとめて伝え合おうとしている。</p>
--	--	---

5. 指導と評価の計画（全12時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○乗り物のことを調べてカードに書くという学習課題を確かめて、単元の学習の見通しをもつ。	・子どものカードを作りたいという思いを引き出すために、モデルを提示し、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。	
2 (本時)	○「いろいろなふね」を読み、内容の大体を読み取る。	・それぞれの船について、どの段落に述べられているかまとまりに気付かせる。	<p>[思考・判断・表現①] 観察・ワークシート</p> <p>○教材に出てくる順序に沿って事柄を並べ、どんな船なのかを考えているかの確認</p>
3	○客船の「やくめ」「つくり」「できること」を読み取り、カードにまとめる。	・役目・つくり・できることの3つに分けて確認させる。	<p>[知識・技能①] ワークシート</p> <p>・3つの観点に分けて線を引いているかの確認</p>
4	○フェリーボートの「やくめ」「つくり」「できること」を読み取り、カードにまとめる。		<p>[知識・技能①] ワークシート</p> <p>○3つの観点に分けて線を引いているかの確認</p>
5	○漁船の「やくめ」「つくり」「できること」を読み取り、カードにまとめる。		<p>[思考・判断・表現②] カード</p> <p>・3つの観点についてカードに書き出しているかの確認</p>
6	○消防艇の「やくめ」「つくり」「できること」を読み取り、カードにまとめる。		<p>[思考・判断・表現②] カード</p> <p>○3つの観点についてカードに書き出しているかの確認</p>
7 8	○他の乗り物のことを調べて、カードに書く。	・カードには調べた文章をそのまま書き写すのではなく、短く	

9		書くように助言する。	[思考・判断・表現③] カード ○自分の選んだ乗り物について考えてカードに書き出しているか、カードの観点の確認
10 11	○調べたことをまとめたカードを紹介する。	・友達の発表を聞いて感想を伝え合わせ、自分のカードのよさや頑張りに気付けるようにする。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>観察・振り返りの記述</u> ○進んでよりよく伝えようとしているかの確認
12	○単元の学習を振り返る。	・単元の目標に則して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。	

6. 本時の指導 (2/12時)

- (1) 本時の目標 教材文を読んで、内容の大体を読み取ることができる。
- (2) 本時の評価規準 **思**叙述をもとに写真と船の名前を対応させて、それぞれの船のことがどの段落に書いてあるのかを読み取っている。[C(1)ア] (観察・ワークシート)
- (3) 準備物 教材文拡大提示用、船の写真、船の名前の短冊
- (4) 学習の展開

		学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 〔5分〕	見通し	1. 課題をつかむ ・早くカードを作りたいな。	○乗り物図鑑を作るために教材文を読んでカードを書く練習をすることで本時の位置付けを確認させる。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           どんなふねがでてくるか、しゃしんとぶんでたしかめよう。         </div> ・たくさんふねが出てくる。 ・3つくらいかな。	○「いろいろなってどういうこと？」と問い、具体的に数字で想像させて複数の船の事例に気付くようにする。	

展開 〔32 (27+5) 分〕	解決活動	<p>2. 全文を読み，課題を解決する</p> <p>○4枚の写真を出てくる順番に並べ変え，船の名前を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの人が乗れそうだから。</li> <li>・フェリーボートは，「車をふねに入れて」と書いているから。</li> <li>・47ページに，「あみをつんでいます」と書いているから。</li> </ul> <p>○段落を確かめ，文章構成を確認する。</p>	<p>○4種類の船について説明していることを確認し，写真を提示し，事柄の順序を捉えさせる。</p> <p>○「どうしてこの写真が……だと思ったの？」と問い，写真と本文から根拠を発表させる。</p> <p>○「始め」「中」「終わり」の大きく3つのまとめりと，中の例が4つあることを捉えさせる。</p>	<p>☑️ 叙述をもとに写真と船の名前を対応させて，それぞれの船のことがどの段落に書いてあるのかを読み取っている。(観察・ワークシート)</p>
	まとめ	<p>3. まとめる</p>	<p>4つの船が出てくる。</p>	
終末 〔8分〕	振り返り	<p>4. 本時の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は，客船がいいです。理由は，食堂で食事をしたいからです。</li> </ul>	<p>○4つの船のうち，文章読んで一番いいなと思った船とその理由を書かせる。</p> <p>○それぞれが違う船を選択したり，選択した船が同じでも，理由が違ったりすることに気付かせ，お互いを認め合うようにさせる。</p>	

(5) 板書計画

